第33号（2024年春号）
発 行 日　2024年4月26日
信州大学教職支援センター
Shinshu University
Center for the Teaching Profession

教職支援センター　ニューズレター

巻頭言　【 新たな時代に向けて 】

時の流れは速く、平成18年(2006)に全学教育機構の教職教育部として発足した現・教職支援センターは、今年で18年目を迎えます。当初、教員免許取得可能な5学部（人文・理・工・農・繊維学部）の教職教育の充実と、教職を目指す学生を「善き」教員へと導くことを目的に設立された教職教育部は、平成28年(2016)に教職支援センターへと改称され、県内外の中等教育機関を中心に、多くの教育にかかわる人材を輩出し、現在に至っています。

この間、元号は平成から令和に変わり、学習指導要領の改訂も2回実施され、教職教育部発足当時の専任教員の世代交代等も進み、本年度は藤井善章先生と橋本萌先生を新たなスタッフとして迎え、専任教員5名、特任教員5名、兼務教員5名の体制で新たなスタートを切りました。

近年、教職志望者数の減少や教員採用試験の競争率低下などを受け、「教員の質」への懸念が強まる中、教育改革も進んでいます。「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修」においては、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた資質能力」「多様性への対応力」「社会の変化に対応した資質能力」「学校体験活動の充実」「教職への魅力向上」といった課題が示されています。

教職支援センターにおいても、専門5学部の教職課程の質向上に向けたカリキュラム開発、個々の学生に寄り添った指導・支援、教育実習の充実と学校現場との連携強化、教職の魅力向上に向けた広報活動の展開等の課題解決に向けて取り組んでいるところです。

また、昨年度から教職支援センターと各学部との連携を強化することを目的に、教職課程の自己点検・評価を開始し、これまで以上に高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた教員の養成に注力しています。

新たなスタートに当たり、専門5学部の教職課程の円滑な運営支援、教育学部や地域の教育機関との連携、学校教育に関わる研究開発の推進など、教員養成の質向上に向けた取り組みをこれまで以上に積極的に進めてまいります。

広い意味で教職への情熱を持つ学生一人ひとりが、高い専門性と豊かな人間性・社会性を備えた「善き」教育者として成長できるよう教職支援センターは全力でサポートしてまいります。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

平野吉直（教職支援センター長）

初級CST養成講座を振り返って（2）

令和5年12月9日（土）松本キャンパスにおいて、令和5年度初級CST認定修了審査会が開催されました。

CST（Cor Science Teacher）とは、理科教育の中核的役割を果たす教員で、信州大学と長野県教育委員会と共同でCSTの人材養成に取り組んでいます。

冬号に引き続き、初級CST認定修了審査に挑戦したみなさんの感想を紹介します！

【雨宮尚輝さん（農学部）】

CSTを終えて、改めて理科の面白さと難しさを感じた。また、新たな考え方を取り入れながら考えを進めていくことの重要性を知った。今後は、CSTの経験を活かし、全方よしとなるような取り組みをしていきたい。桜井先生、下澤先生をはじめ、お世話になりました諸先生方ありがとうございました。

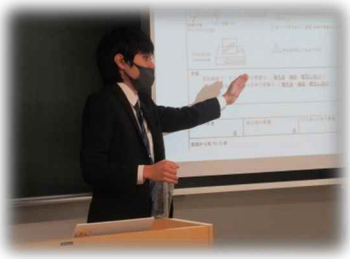
【中村美優さん（農学部）】

CSTの活動を通して、授業づくりにおける生徒側の視点と先生側の視点の両方から、理科の授業を捉えることができるようになったなと思っています。学部2年で初めてCSTの審査会を見学した時、「私もこんな風に授業を進められるようになるのかな…」と、洗練された授業を行う先輩方の姿に憧れを抱くと同時に不安も感じていました。しかし、桜井先生や下澤先生と一緒に様々な題材を用いた授業について考える中で、自分自身が教材について理解することも当然重要ではあるけれども、同時に教師である私が、教材を面白がって、楽しんで扱う事も同じくらい大切だということに気がつきました。思い返せば、当時憧れた先輩方も、楽しそうに授業をやっていた気がします。今年度の審査会も、模擬授業をやった同期の皆さんが生き生きと話していたのが印象に残りましたし、授業を見学・参加する立場でも生徒になりきって和気あいあいとしていて、そんな皆さんと一緒にCST頑張ってきて良かったな、楽しかったなと思いました。

私は今後中学校教諭になりますが、CSTの活動を通して得たものは何ものにも代えがたい、貴重なものだったなと改めて感じています。“理科の伝道師”として、身近な事象に隠れた科学を生徒と一緒に楽しんで学んでいけるような、理解を深められるような教師を目指してこれからも精進していきたいと思います。

【堀天空さん（農学部）】

4年間のCSTの活動は、とても貴重な経験になったと思います。自分は理科の授業について、生徒が実験観察などを「実際に体験」し、かつ事象を「自分の力で理解する」という2つの軸を中心に授業を組み立てていくべきであると、4年間の教職のなかで考え、CST修了審査会では実験とICT教材を中心に、生徒が自分で考えていけるような授業を行いました。審査会においても、この授業を実際の現場で行った際にも、先生や学生、生徒から様々な意見をもらい、改善点も多く見受けられました。特にICT教材については、生徒が効率的に学べるものの、先生が使い方を熟知していないとあまり効果がないため、その点についてもっと考えていこうと思いました。また修了審査会では、他のCST受講者の方の興味深い授業をたくさん見ることができ、とても参考になりました。ありがとうございました。



また、CSTの取り組みの中で、（指導要領の範囲ではあるものの）教科書には載っていないような実験、実習を多く行いました。生徒が理科という教科に興味、関心を持つためにも、教科書に沿った授業をただ行うのではなく、CSTで学んだように、自分で授業範囲に沿った実験、実習を作り上げていけると、より良い「CST」の在り方に近づけるのではないかと思いました。
自分は大学院に進学しますが、今後も「理科」という科目が主体の界隈にいることになります。今後も研究を続けていく中で、理科教育についてさらに探求していけたらと思います。最後になりますが、桜井先生、下澤先生をはじめ、お世話になった先生方に関しては4年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

【佐藤　良さん（理学部）】

初級CST養成講座では、主に中学校や高等学校の理科で学ぶ様々な事象を、より身近に感じられるものとして捉える方法を学びました。

学校で用いられる理科は、科学の中でも基礎的なものばかりで、意識しない限り、実生活中の発展した科学との結びつけが難しいです。そのため、どのように関連性に気づかせ、楽しさを伝えられるかは、理科教員の大きな課題です。これは、理科指導法等の講義や、理科が苦手な友人からの話、教育実習での生徒との交流を通じても実感しました。しかし、理科を好んで学び、理学部理学科に在籍している私自身が、これから理科を学ぶ生徒や、自分自身から遠くのものだと感じている生徒にとっての"身近さ"を十分に理解しきれていないのではないかと感じていました。その中で、CST講座では、デスクライト、電子レンジ、植物の種などの身近な物を用いたり、少し専門的な話でも、可能な限りホームセンターなどで手に入るような材料を用いた実験を行っていたのがとても印象的でした。そして、講座を通して、身の回りのものに対する見方が大きく変わったことを実感し、いままでより一層、あらゆるものが教材として使えそうだと感じるようになりました。

CST講座では、自分が両者を知りながらも、単に理科と身近なものとの結びつきが弱かった事柄を学びましたが、時折全く知らなかった知識や関連性も学ぶことが出来ました。そして、講座を行う際に、桜井先生を含む全員がとても楽しそうに実験を行っている姿は、授業の形としてひとつの目標となりました。

【和田茉美さん（理学部）】

私は入学当初、コロナ禍の影響でCSTの活動にも思うように参加できませんでした。それでも、理学部CST担当の桜井先生をはじめ、教職支援センターの先生方のサポートのおかげで無事に修了することができました。

CSTの活動は興味深いものばかりでした。特に、自分の専門分野以外のテーマのときは、知らなかったことをたくさん知ることができ、改めて理科を学ぶ楽しさを実感しました。

また、他学年や他分野の学生さんとの交流の場ともなり、たくさんの人と関われるとてもいい機会でした。私は来年度大学院に進学予定ですが、CSTで学んだことはこれからの研究活動に役立つと思っています。本当にありがとうございました。

【澤井貴之さん（理学部）】

私がCSTプログラムに参加したきっかけは、友人からの勧めでした。教職課程でかなりの講義数をとっていたため、最初は負担になるようならやめようと考えていました。実際に、学科の必修やサークルなどを優先し、講義を見送る場合もありました。ですが、修了審査会までを通し必用な単位数は苦労なく取ることができたため、あまり負担には感じませんでした。CSTプログラム自体も、長時間にわたる講義というわけではなく、基礎的な知識をもとに、それをどのように授業の中に取り入れていくかという実践的な内容でした。私は普段、メーカーの違うベーキングパウダーの成分を比べたり、自作の入浴剤を拵えて遊ぶようなたちでしたので、そういった日々の遊びを授業に組み込むという視点を得られたことは大きな成果だったと思います。残念ながら、教育実習校ではあまり実演をする機会は得られなかったのですが、CSTプログラムへの参加は、理科教員として第一線で授業を行っていくうえでとても強みになる機会だと感じました。

教職支援センター3～4月の動き

○ＣＳＴ養成プログラム実施委員会（2/29）
○長野県立歴史館との連絡協議会（3/5）
○教職教育委部会学芸員要請課程実施分科会（3/7）
○教職教育部会（3/11）
○長野県松本美須々ヶ丘高等学校との連携協定調印式（3/19）
○新入生教職ガイダンス（4/5）
○高年次生教職ガイダンス（4/3～4/8）

農学部2年生の教職ガイダンスの様子(4/3)

新任教員のご紹介

藤井善章先生 （教職支援センター教授）

はじめまして、4月から教職支援センターの教員として着任しました藤井善章と申します。教育方法論や特別活動、総合的な学習の時間、教育実習事前・事後指導、教職実践演習などの授業を担当させていただきます。これまで、私は長野県内の小・中学校教諭、長野県教育委員会指導主事、信州大学教育学部交流人事教員、そして小学校教頭、中学校校長を経てきました。様々な場所に赴任してきて感じることは、変化の激しい社会と言われる昨今といえども、学校教育活動の根本は変わっておらず、子どもたちに本気で向き合うとそれに応じて子どもたちの反応が返ってくるということです。私の周りでは、自己の力量を磨きながら情熱や愛情を持って児童生徒に教育する先生方が多いことで、さまざまなドラマティックなことが起き、活気のある学校に勤めていることができたと思っています。それらの経験を踏まえて現在の学校現場の状況も伝えながら、学生たちが不易な部分を学び取っていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

橋本萌先生 （教職支援センター助教）

山々は頂に雪を残しているものの、昼間の柔らかな日差しと鳥のさえずりに春の訪れを感じています。
はじめまして。2024年度より教職支援センターに着任しました、橋本萌（はしもとめぐみ）と申します。専門は日本教育史、道徳教育で、昨年までは都内の女子大学で講義を担当しておりました。信州大学では、「教職論」「道徳教育の理論と実践」「教育の思想と歴史」を担当させていただきます。松本キャンパス以外でも、講義を担当しますので2年生以上の皆さんともご一緒できる機会があると思います。
教員は、子どもの成長に伴走することのできる素晴らしい仕事です。私自身も学生たちの将来の夢・目標に伴走していることに責任をもって教職の魅力を楽しく、わかりやすくお伝えできるよう努力してまいります。今度ともどうぞよろしくお願いします。

編集後記

令和6年度は2名の専任教員の先生をお迎えし，新しい春のスタートを切りました。 新入生対象の春の教職課程ガイダンスにもたくさんの学生が参加してくれました。本学の学生が教職を履修する動機はとても多様ですが，多くの学生が教職課程の授業から実りある学びを得ることができるように，がんばりたいと思います。 （広報担当 横嶋敬行）

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教職支援センター

■〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■TEL: 0263-37-3367 ■MAIL: kyousho@shinshu-u.ac.jp
■URL: https://kyoushoku.shinshu-u.ac.jp/kyoushoku/cms/